

相談援助実習における社養協相談援助実習評価表を用いた学習達成評価の調査

～実習指導者による評価結果と実習生自身の自己評価との比較・関連～

十文字学園女子大学 氏名 大山博幸 (06129)

富井 友子 (十文字学園女子大学 06578)、太田 真智子 (十文字学園女子大学 08235)

キーワード：相談援助実習評価表、自己評価、実習指導者

1. 研究目的

筆者らは、2013年に社会福祉士養成校協会（現ソ教連）が作成した「相談援助実習評価表（以下、評価表）」を用いて、相談援助実習を受講する学生（以下、実習生）の自己評価結果を対象とした研究を継続している。これまでの結果から、本評価表が実習生の意識として、各々の実習経験から、その学習の達成状況が明らかになること、また実習中の実習指導者の指導内容の程度やケーススタディへの取り組みは、学習達成度と関連があること、一部実習配属先の種別によって、その学習達成度における特徴的な差異あることが示唆された（大山・富井 2017、2016、2015）。本研究において今回は相談援助実習後に、実習指導者による評価の結果及び実習生自身に対して求めた自己評価の結果から、実習指導上の課題を検討することを試みる。

2. 研究の視点および方法

筆者らが担当する X 女子大学の平成 29 年 2 月から 3 月に、原則、1 回目の実習として 60 時間以上、また 8 月から 9 月にかけて 2 回目の実習として 120 時間以上の計 180 時間以上の相談援助実習を行う実習生 24 名（3、4 年生）を調査対象とした。2 回目の実習後に、実習指導者より記入された評価表を回収した。また実習生には自己評価として記入できるように各チェック項目における評価基準の表現を修正した評価表を作成した（以下自己評価表）。自己評価表は、実習生が主観的に記入しやすいように、評価基準の表現を「4：十分達成できた、3：だいたい達成できた、2：ある程度達成できた、1：あまり達成できなかった、NA：やっていない」とし、実習後に回答を求めた。また 2 回目の実習事前には、対象となる実習生に対して上記実習事前の自己評価表の項目及び実習先の種別を問う質問と学生の年齢及び氏名を問う質問によって構成された質問紙に記入を求め、2 回目の実習終了後に、実習事後の自己評価表及び実習指導者に関する質問 9 項目（4：あてはまる、3：ややあてはまる、2：あまりあてはまらない、1：あてはまらない、NA：実習指導者だったのかわからないの 5 件法）及び学生の氏名を問う質問によって構成された質問紙の記入を求めた。なお集計、解析の際、実習指導者の評価基準においては、A を 4 点、B を 3 点、C を 2 点、D を 1 点、NA を 0 点とし、リッカートスケールとみなし集計した。また、評価表と自己評価表の評価基準は異なるものの、対応関係があるとみなし進めた。

調査協力に同意した 24 名のうち分析に有効となる 19 名のデータを対象とした（有効回答率 79.2%）。なお、19 名において、2 回とも同じ実習配属先で実習をした者は 8 名（42.1%）、異なった実習配属先で実習をした者は 11 名（57.9%）であった。

3. 倫理的配慮

実施前に学生に本研究の調査の依頼をした。その際、氏名を記入するのはデータの対応関係を知るためであって、本調査の結果は授業の成績評価とは関連のないこと、質問紙調査票の記入を拒否することができることを文章にて説明し、本調査に協力するか否かを同意書の記入によって求めた。なお本研究において筆者らが所属する大学の研究倫理委員会より審査を受け承認を得た。

4. 研究結果

表1に実習指導者による評価及び実習生自己評価の比較結果を示す。

表1 実習指導者による評価と実習生自己評価の比較

中項目	N=19	平均値	標準偏差	相関(r)	t(18)
101.対象(利用者、職員、グループ、地域住民等)との基本的なコミュニケーションを学ぶ	学生	3.37	0.68	0.14	0.27
	実習指導者	3.42	0.61		
102.円滑な人間関係の形成方法を学ぶ	学生	3.32	0.58	0.33	1.00
	実習指導者	3.16	0.60		
103.利用者理解の方法を学ぶ	学生	3.21	0.63	0.60**	2.69*
	実習指導者	3.58	0.69		
104.利用者の動向を統計的に学ぶ	学生	2.21	0.98	-0.08	0.78
	実習指導者	1.84	1.74		
105.対象(利用者、グループ、地域住民等)へのアセスメントとニーズ把握の方法を学ぶ	学生	2.89	0.74	0.19	1.57
	実習指導者	3.32	1.06		
106.個別支援計画等、様々な計画の策定方法を学ぶ(プランニングまでを主として)	学生	2.89	0.66	0.21	0.55
	実習指導者	3.05	1.22		
107.利用者との援助関係の形成の意味と方法を学ぶ	学生	2.79	0.79	0.01	1.92
	実習指導者	3.26	0.73		
108.利用者と家族の関係を学ぶ	学生	2.58	1.02	0.05	1.25
	実習指導者	3.00	1.11		
109.利用者や関係者(家族等)への権利擁護及びエンパワメント実践を学ぶ	学生	2.53	1.07	-0.04	0.44
	実習指導者	2.68	1.11		
110.モニタリングと評価方法を学ぶ	学生	2.16	1.21	-0.07	0.48
	実習指導者	2.37	1.42		
111.実習機関・施設の他職種、他職員の役割と業務及びチームアプローチのあり方を学ぶ	学生	3.16	0.83	0.25	2.04
	実習指導者	3.58	0.61		
112.実習機関・施設の会議の運営方法を学ぶ	学生	2.58	1.02	-0.02	0.84
	実習指導者	2.84	0.90		
113.関連機関・施設の業務や連携状況を学ぶ	学生	2.95	0.91	0.21	1.59
	実習指導者	3.32	0.67		
114.社会福祉士の倫理を学ぶ	学生	2.74	0.93	0.17	1.24
	実習指導者	3.05	0.78		
115.就業規則について学ぶ	学生	2.53	1.12	-0.17	1.43
	実習指導者	1.84	1.57		
116.実習機関・施設の組織構造及び意思決定過程を学ぶ	学生	2.47	0.61	-0.05	0.42
	実習指導者	2.32	1.49		
117.実習機関・施設の法的根拠、財政、運営方法を学ぶ	学生	2.53	1.02	0.20	1.00
	実習指導者	2.16	1.46		
118.業務に必要な文書様式の記入内容・方法を学ぶ	学生	2.42	0.77	0.37	3.75***
	実習指導者	3.21	0.86		
119.実習機関・施設のある地域の歴史や人口構造等を学ぶ	学生	2.58	0.77	0.30	1.93
	実習指導者	2.95	0.62		
120.実習機関・施設のある地域の社会資源を学ぶ	学生	2.84	0.90	0.26	1.14
	実習指導者	2.53	1.07		
121.地域社会における実習機関・施設の役割と働きかけの方法等を学ぶ	学生	2.84	0.77	0.41	1.23
	実習指導者	3.11	0.94		
項目総平均	学生	2.74	0.54	0.37	1.00
	実習指導者	2.88	0.57		

p<.05,p<.01,***p<.001

5. 考察

全体的には、実習指導者の評価と自己評価は、それぞれ独自になされていると思われるが、正の相関がみられた項目3「利用者理解の方法を学ぶ」は、学習達成の程度が相互に了解されやすい可能性を持つ内容であると考えられた。実習指導者の評価結果において、21項目を独立変数に、総合評価得点を従属変数に重回帰分析(ステップワイズ法)をおこなったところ、項目3と項目16が総合評価得点に対して、それぞれ正の影響を与えており、実習指導者は総合評価においてこの2項目を重視していることが示唆された。また、項目3は、上記考察も踏まえた際、実習生側にとっては、実習中の実習指導者からの指導に基づいた学習を適切に進めていく上での、鍵を握る学習内容であることが推察される。